

行政視察報告

兵庫県淡路市

10月22日、「小学校の統合と廃校後施設の利活用」をテーマに兵庫県淡路市に行政視察を行った。

淡路市では、小学校の統合を計画的に進める一方で、廃校後の施設活用を官民一体で進めている。廃校施設の活用率は約77%に達し、企業誘致を通じて地域コミュニティの活性化を実現している。また、統合の際には児童の交流授業を行い、新しい環境への移行をスムーズに進めている。この取組は、地域住民との協力と信頼を基盤としており、本市における統廃合計画や跡地利用の参考となる地域特性を活かした利活用が重要である。



▲「サキア」1Fこども図書館



▲「サキア」2F宿泊施設



▲閉校施設を活用した複合スペース「サキア」

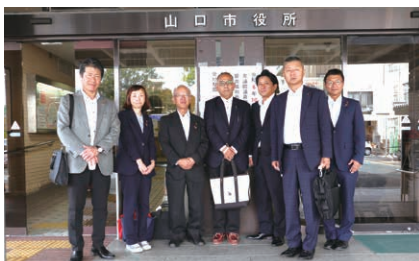
総務建設委員会



山口県山口市

10月24日、「所有者不明土地の活用について」をテーマに山口県山口市に行政視察を行った。

山口市では、所有者不明土地を地域福祉増進事業で活用する取組を行っている。具体的には、所有者不明土地を調査し、法定相続人26人を特定するなど、課題解決に向けたプロセスを学んだ。この事例では、所有者不明土地の寄付を通じ、公共スペースとして活用する計画が進行中である。調査には約2年を要し、土地所有者探索の重要性和課題解決の手法が示された。土地の相続登記を早期に進めることの重要性を感じたほか、本市でも同様の仕組みを導入する必要があると考える。市民生活を向上させるために、今回学んだ手法を活用することが求められる。



▲山口市役所玄関前



▲山口市役所にて研修

大阪府八尾市

10月25日、大阪府八尾市に「中小企業地域経済振興基本条例」と、※コンソーシアムである「みせるばやお」の現地視察を行った。

八尾市では、中小企業の活性化を目的に「中小企業地域経済振興基本条例」を施行している。経営相談や融資斡旋、人材マッチングなどの支援策が充実しており、地域経済の好循環を目指している。視察した「みせるばやお」は、地元企業間の連携やイノベーションを促進する施設であり、就職活動や製品開発の場として機能している。本市でも、産業振興や中小企業支援を強化し、市民や事業者との協力を進める必要があると感じた。八尾市の取組は本市に多くの示唆を与える内容であった。

※コンソーシアム
共同事業体



▲「みせるばやお」内の交流スペース



▲オンライン工場見学



▲八尾市内中小企業の商品展示